



大部っ子

大部小だより

令和5年11月

「やさしく かしこく たくましく」－自ら学び、ともに生きる児童の育成－

文責：学校長



令和5年度全国学力・学習状況調査結果より

吉岡 優

4月18日（火）に実施された[全国学力・学習状況調査](#)における調査結果の概要と本校の対策について、お知らせします。



(1) 教科（国語・算数）の結果分析（◎非常によい、○概ねよい、△やや課題がある）
※正答率を全国と比較して、相対的な評価として

国語	問題番号	項目
◎	2四	資料を読み、運動と食事の両方について分かったことをもとに、自分ができそうなことをまとめて書く
◎	3二	寺田さんと山本さんが、どのような思いでボランティアを続けているのかについて、分かった
◎	1二	【川村さんの文章】の空欄に学校の米作りの問題点と解決方法を書く
◎	1三(1)ウ	【川村さんの文章】の下線部ウを、漢字を使って書き直す（きかん）
◎	1一	米作りのときに記録していた【カード②】と【カード③】の下線部の関係として適切なものを選択する
○	3一(2)	【インタビューの様子】の傍線部イ（～というのは、どのような姿ですか。）のように質問をした理由として適切なものを選択する
△	1四	【川村さんの文章】の特徴の説明として適切なものを選択する
算数	問題番号	項目
◎	2(4)	テープを直線で切ってできた二つの三角形の面積の大小について分かることを選び、選んだわけを書く
◎	3(2)	3種類のファイル23人分を全部並べた長さの求め方と答えを記述し、全部のファイルを棚に入れることができるかどうかを判断する
◎	4(2)	運動カードから、運動した時間の合計が30分以上である日数を求める
◎	3(3)	$(151+49) \times 3$ と $151 \times 3 + 49 \times 3$ を計算したり、分配法則を用いたりして答えを求める
◎	4(3)	果汁が25%含まれている飲み物の量を基にしたときの、果汁の量の割合を分数で表す
◎	4(3)	二つのグラフから、30分以上の運動をした日数が「1日」と答えた人数に着目して、分かることを書く
△	2(3)	切って開いた三角形を正三角形にするために、テープを切るときのAの角の大きさを書く

国語・算数ともに良好でした。両教科ともに知識理解・応用・思考力を問う問題は正答数が高く、基礎基本・応用とも定着していることがわかります。学校での学習、家庭での学習などにまじめに取り組み、しっかり学んでいることがうかがえます。

効果があったと思われる取り組み	
学校	①高学年教科担任制（国語・算数等）…兵庫型学習システムの効果 ②書くこと・ノート検定、対話・言語活動の充実の推進と授業改善 ③ICT機器を活用した学びの推進…提示・思考・表現全場面での効果的な利活用
家庭	①家庭での保護者の献身的な見守り・支援 ②担任等による宿題設定の工夫や時には個別最適化された課題の設定 ③マイチャレノート（自主学習帳）の自宅での主体的な取り組み

（２）各教科の課題

教科	育成すべき力	課題の特徴
国語	①表現（プレゼン）力	図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる複数の条件に合わせて作文を書くこと
	②読解（理解）力	文章の種類とその特徴について理解しているかどうかをみること
算数	①「平面図形」の概念	平面図形（今回は正三角形）の意味や性質について理解しているかどうか
	②「割合」の概念	割合（今回は百分率）で表された割合について理解しているかどうか

（３）教科の今後の取り組み

国語では、PISA 型読解力向上の観点から、文字からの読み取りとともに、図・表・グラフ・その他資料等からの読みとりの能力をも強化しつつ、お話づくり、考えをまとめる力、伝える力、作文力、さらには表現（プレゼン）能力の育成にさらに取り組みます。また、文章の読解力について、筆者の述べたいことや段落の趣旨に着目し、その主張に迫りながら、授業では対話・表現をキーワードに読みを深めます。



算数では引き続き、「おの検定」等の取組で基礎的な知識・技能の習得を図ります。また、数学的思考の基礎となる数学的概念は、その獲得に至る過程において本校ではすべてのクラスで「吹き出し法」を用いた学びを通して、数量の関係性を理解したり、必要な情報を抽出したりする力（ひらめき力・類推力）の育成を主眼に置いて学習を進めます。また今回課題のあった「割合」の理解では、「わり算・〇割、％」など四則の中でも除（加減乗除の除）の学びを丁寧に行います。「（平面）図形」の分野では思考を促すためにICT機器を利用するなどしてイメージ・ひらめき・気づきを大切にした授業を展開していきます。

さらに、学校では現在の学習指導要領でも示されている「主体的、対話的で、深い学び」を推進しつつ、今回効果が認められたICT機器（一人1台のデジタル端末）も適切に利活用しながら、個別最適な学びと協働的な学びの両輪でさらに授業改善に取り組んでいきます。

PISA 型読解力	吹き出し法
OECD が測る学力のことで、学校で習ったことをどの程度理解しているかではなく、知識や経験を活用して、実生活のさまざまな場面で直面する課題について、自分で積極的に考える能力のこと。特にデータの読み取り、筋道立てて説明する力が測られる。	子どもの思考内容やその過程を「見える化」した授業のスタイル。子どもがひらめいたこと、疑問点、わかったことを可視化・共有化することで、授業を創造していくスタイル。京都文教大の亀岡先生や関大初等部の古本先生が提唱されている。

(4) 学習や生活状況に関する分析

これは、児童一人ひとりの学習、規範意識、社会に対する興味・関心等を質問紙による調査によって調査したものです。本校児童の特徴的な事項を抜粋して報告します。本校は多くの質問で肯定的評価が多く、何事にも興味関心が高く、主体的で、誠実にそして熱心に粘り強く日々の学習や生活に取り組んでいる様子が見えます。また、周囲の大人や友だちとの関係も良好である様子が見えます。([文部科学省の分析結果](#) もあわせて御覧ください。)

【良好な項目】「あてはまる・どちらかといえばあてはまる」の合計値が 95%以上

- (1) 朝食を毎日食べていますか
- (2) 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか
- (5) 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか
- (6) 先生は、授業やテストで間違えたところや理解していないところを分かるまで教えてくれていると思いますか
- (8) 人が困っているときは、進んで助けていますか
- (9) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか
- (11) 人の役に立つ人間になりたいと思いますか
- (12) 学校に行くのは楽しいと思いますか
- (14) 友達関係に満足していますか
- (15) 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか
- (25) 今住んでいる地域の行事に参加していますか
- (30) 学習の中で PC・タブレットなどの ICT 機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか
- (33) 5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか
- (35) 5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか
- (38) 授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていますか
- (42) 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか
- (44) 国語の勉強は大切だと思いますか
- (45) 国語の授業の内容はよく分かりますか
- (46) 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか
- (52) 算数の勉強は大切だと思いますか
- (54) 算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか
- (国 1) 今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。あきらめずに最後まで解答しましたか

(算1) 今回の算数の問題では、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありました。あきらめずに最後まで解答しましたか

① 良好と思われる項目

【肯定的評価が95%に達していないが良好な項目】

番号	項目	大部小	兵庫県	全国
(17)	家庭学習時間の確保（1時間以上）	84.8%	57.6%	57.1%
(21)	図書館利用状況（殆ど、全くいかない以外）	83.1%	55.1%	59.1%
(26)	社会や地域への貢献意欲	89.8%	75.7%	77.0%
(28)	地域等の外国の方と交流・興味関心	89.8%	77.7%	78.3%
(29)	授業でのICT活用状況（週1回以上）	93.2%	81.6%	86.5%
(33)	授業等学びの場での自力解決意欲	88.2%	77.0%	78.8%

子どもたちは上記項目でも大変良好です。家庭のご協力により、基本的な生活習慣の確立（早寝早起き朝ごはん）がなされ、学校・家庭ともに満足感を持って生活をしています。また、自尊感情や「いじめは絶対に許さない」などの思いを含めた道徳的心情の順調な発育、学習や生活に対する意欲などの面での成長が見て取れます。さらに、テスト受検の際に「最後まであきらめずに解答する」と答えた児童が多かったことと無解答の児童が少なかったことからやる気と根気がしっかり身につけているとも言えます。

② 課題と思われる項目

番号	項目	大部小	兵庫県	全国
(20)	平日の平均読書時間（30分以上）	35.6%	36.6%	37.3%
(23)	新聞を読む（毎日+週に1～3回以上）	13.6%	13.0%	12.6%

上記の2つの問いに関し、全国的に見ても、本校にとっても課題であり、とても気になるところです。読書・新聞は新しいことを知ったり、気づいたりでき、時には新しいことを疑似体験できたりする「魔法のツール」といっても過言ではありません。＜書籍の紹介＞を[大部だより（デジタル版【第10号】）](#)でしていますので再読いただければ幸いです。

新聞を読むことのメリット	読書をすることのメリット
1. 知識が豊富になる	1. 想像力が豊かになり、視野が広がる
2. 読む力が向上して語彙力がつく	2. 集中力が高まり、学習力が身につく
3. 社会に対する興味・関心が広がる	3. ストレス解消になり、リラックスできる
4. 家庭でのコミュニケーションが増える	4. 様々な見方や考え方に触れられる
5. 新聞の活用で、生活が豊かになる	5. 感想を持つことで、新たな価値観を得る

最後に、今回の分析から「さらに伸ばすべき点」、「改善が必要な点」を明確になりましたので、今後とも家庭と学校がしっかり連携しながら、子どもの成長を支えていきましょう。